

ブータンの旅



1. 首都ティンブー全景（人口約3万人）。標高2,400 mの盆地に位置する。背景は結晶質変成岩類よりなるダガラ山塊で、最高峰はアム・ジョモ峰（4,570 m）、手前は「ドルシン」と呼ばれる死者を弔う経文が書かれたのぼりで、国中いたるところにはためているのが見られる。

ヒマラヤ山脈の一角を占めるブータン王国では、美しく雄大な自然と独自の伝統的文化に育まれて、人々は永遠の時の流れに生きているようだ。しかし、この小国にとっても現実はいへん厳しく、政府は国の独立を守ることと、製造工業の育成を主眼とした国の近代化を進めることに熱心である。（1993年3月撮影）
（地質調査所国際協力室 富樫幸雄）



2. ティンブー近郊の大理石鉱山の処理プラント。大きなブロックから得られる石材用のほか、小塊や粉末も国外へ輸出される。



3. ブータン南部、インド国境付近の石灰岩採掘現場。炭酸カルシウム組成の多いものは「化学グレード」として国内のカルシウムカーバイド製造に用いられる。